CHRONOGRAFFITI

Composed by Koshiro Hino

Yamaguchi Center for Arts and Media StudioA
21 February 2026

C H R O N O G R A F F I T I

C o m p o s e d b y K o s h i r o H i n o

日野浩志郎新作コンサートピース

公演日時
2026年2月21日（土） 19:00開演（18:30開場）

会場
山口情報芸術センター[YCAM] スタジオA
定員：150名

チケット料金［全席自由］

前売	当日
一般＝3,500円	一般＝4,000円
特別割引、any 会員＝3,000円	25歳以下＝2,500円
25歳以下＝2,500円	

チケットのお求め
山口市文化振興財団チケットインフォメーション
TEL.083-920-6111 (10:00〜19:00 火曜休館・祝日の場合は翌日)

https://www.ycfcp.or.jp/（24時間受付）　＊QRコード（チケット購入）

※未就学児入場不可
※前売り完売の際は、当日券の販売がない場合がございます
※特別割引：シニア（65歳以上）、障がいを持つ方及び同行の介助者1名が対象
※車イス席は事前にお問い合わせください

託児サービス
2月14日（土）までにチケットインフォメーションまでお申込（有料）

作曲：日野浩志郎
ビジュアルエフェクト：古舘健
出演：安藤巴、谷口かんな、前田剛史
宣伝写真：井上嘉和
宣伝美術：真壁昂士
制作：伴朱音
ビジュアルエフェクトアシスタント：佐藤文音
協力：一般財団法人 おおさか創造千島財団「KCV セレクション」

主催：公益財団法人山口市文化振興財団
後援：山口市、山口市教育委員会
共同開発：YCAM InterLab
企画制作：山口情報芸術センター［YCAM］

Chronograffiti 開催記念
豊田利晃監督作品「戦慄せしめよ」上映＋舞台挨拶
2026年2月20日（金）21日（土）22日（日）
※21日（土）は上映後舞台挨拶あり　登壇：日野浩志郎
会場：スタジオC　有料
「Chronograffiti」の開催を記念して、日野浩志郎が、延べ1カ月におよぶ鼓童村での滞在制作で書き下ろした音楽映画「戦慄せしめよ」を含む、豊田利晃監督の作品を上映します。
上映時間、詳細はYCAMウェブサイトをご確認ください。

山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media
〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL.083-901-2222　www.ycam.jp

Chronograffiti（クロノグラフィティ）
日野浩志郎による新作作曲作品『Chronograffiti』は、ドイツのMoers Festivalの委嘱により制作し、2025年6月に同フェスティバルにて世界初演。演奏は、元・鼓童の前田剛史、日本管打楽器コンクール第1位の安藤巴、そして日野作品に継続的に参加している谷口かんなの3名のパーカッショニストによるリズムアンサンブルで構成される。
日野は自身のバンド「goat」や、芸能太鼓集団 鼓童との協働などを通して独自のリズム作曲法を発展させてきた。本作ではボンゴやスネアといった最小限の楽器を用い、陶酔的なミニマリズムから身体的・精神的な高揚を引き出す作曲を試みている。加えて、The SINE WAVE ORCHESTRAやDumb Typeで知られる古舘健よるヴィジュアルエフェクトを導入し、通常では感知されない演奏者の動きや楽器の振動を表出させる。聴覚と視覚の両面からミニマリズムに迫る。
タイトル「Chronograffiti」は、“時間”を意味する接頭辞「Chrono」と、“落書き”を意味する「Graffiti」を組み合わせた造語であり、時間と身体が空間に描き出す一種の残像＝視覚的落書きを象徴している。

"Chronograffiti" is a newly composed performance piece by Hino Koshiro, originally commissioned by Germany's Moers Festival to be premiered during their festival in June 2025. This will be the Japan premier show.

The performance features a rhythm ensemble of three percussionists: Tsuyoshi Maeda, a former member of Kodo; Tomoe Ando, the first prize winner of the Japan Wind and Percussion Competition; and Kanna Taniguchi, a frequent collaborator in Hino's compositions.

Hino has developed his distinctive rhythmic compositional style through his band "goat" and his collaborations with the traditional taiko ensemble "Kodo". In this piece, he employs a minimal set of instruments such as bongos and snare drums to create a hypnotic minimalism that evokes both physical and psychological elevation.

Additionally, the performance incorporates visual effects developed by Ken Furudate, known for his work with Sine Wave Orchestra and DumbType. He visualizes the "afterimage of the physical bodies" following the musicians' movements, in an attempt to capture the essence of minimalism in both auditory and visual dimensions.

The title "Chronograffiti" is a coined term combining the prefix "Chrono", meaning time, with "Graffiti", suggesting a kind of visual sketch or scribblesymbolizing temporal and bodily traces drawn in space.

——日野浩志郎（作曲）
音楽家、作曲家。1985年生まれ、島根県出身。現在は大阪を拠点に活動。メロディ楽器も打楽器として使い、複数拍子を組み合わせた作曲などをバンド編成で試みる「goat」や、そのノイズ/ハードコア的解釈のバンド「bonanzas」、電子音楽ソロプロジェクト「YPY」等を行っており、そのアウトプットの方向性はバンドやダンスミュージック、アンサンブル作品など多岐に渡る。これまでの主な作曲作品は、多数のスピーカーや移動する演奏者を混じえた全身聴覚ライブ「GEIST(ガイスト)」(2018-)の他、サウンドアーティストFUJIIIIIIIIIIIITAと共に作曲・演奏した作品「INTERDIFFUSION A tribute to Yoshi Wada」(2021-)等。佐渡を拠点に活動する太鼓芸能集団 鼓童とは2019年以降コラボレーションを重ねており、中でも延べ1ヶ月に及ぶ佐渡島での滞在制作で映像化した音楽映画「戦慄せしめよ/Shiver」(2021、監督 豊田利晃)では全編の作曲を日野が担当し、その演奏を鼓童が行った。音楽家・演出家のカジワラトシオと舞踊家・振付家の東野祥子によって設立されたANTIBODIES Collectiveに所属する他、振付師Cindy Van Acker「Without References」、映画「The Invisible Fighit」(2024年公開、監督 Rainer Sarnet)等の音楽制作を行う。エストニアフィルムアワードEFTA2024にて映画「The Invisible Fighit」の最優秀作曲賞を受賞。

——古舘健（ビジュアルエフェクト）
アーティスト、ミュージシャン、エンジニア。コンピューターとプログラミングを基盤として、音響、映像、エレクトロニクス、テキスタイルなど多様なメディアや領域で活動。主な活動として、サウンドアートプロジェクト「The SINE WAVE ORCHESTRA」を共同主催(2002-)。Dumb Typeのメンバー(2013-)。西陣織織元「細尾」との共同プロジェクト「Quasicrystal」(2015-)。サウンド・インスタレーション『Pulses/Grains/Phase/Moiré』(2018)にて、第22回 文化庁メディア芸術祭大賞に選出。